

“お~い 里山 今日も元気か~い！”

子ども達の元気な声がこだまする
甲賀の里山です

令和5年8月24日(木)
甲賀の環境・里山元気会
井上 博之

1. 里山元気会とは？

- *いつ：平成16(2004)年4月 来年創立20周年
- *だれが：里山地主 松本源吉(初代理事長)、環境会社 水口テクノス、甲賀市職員の3者が発起人です
- *何のため：「荒廃した里山を復元して元気にし、里山体験で元気で健全な子ども達を育成し、地域の人たちに元気を提供し活性化に寄与します」…「元気」が里山のモットーです
- *スタッフは：正会員は40人、内20人程度が日常活動している会員(スタッフ)です
外部の支援として贊助会員が9社です

2. 里山の全体図 約2ヘクタールあります



3. 里山体験の各種プログラム

① 里山遊び

- ・ クライミング ロープ →



- ・ 林間 ロープウェー →



- ・ 坂すべり(雪そり) →



- ・ キックブランコ

- ・ 昔の遊び
竹ウマ、竹ポックリ

- ・ シャボン玉飛ばし

- ・ ボルダリング、スラックライン



② 里山体験と里山整備

- ・ サツマイモ植え、芋ほり → 
- ・ 遊歩道の探索
- ・ ビオトープの木道渡りと生物観察
- ・ 柴つくり（親子体験） → 
- ・ 落葉掃き → 
- ・ 植樹（松枯れ対応松苗、ドングリの苗の植樹）と草取り → 
- ・ パン・ピザ焼き、バーベキュー

③ 里山(環境)学習

- ・キノコ観察(専門家の指導)
- ・火起こし(舞ギリ式)体験 →
- ・「やまのこ」事後学習



④ 自然材利用のクラフトづくり

- ・里山の木の実(ドングリ)、木の枝
や葉、つる の各種リース
- ・枝の大小輪切りと野菜の種の
ストラップやペンダント



4. 森の音楽会(第5回)開催



北保育園 園児の合唱



城山中学 吹奏楽の演奏

5. R4年度 里山参加団体及び参加人員

- ・里山体験、里山遊びなど： 19団体、491人
- ・森の音楽会： 208人

* 里山体験や里山遊びなどは参加団体の希望により、いくつかの里山プログラムを組み合わせて、イベントを開催しています

6. 里山の水との関わり

① ビオトープ、池の設置

設立当初より山田(棚田)の最上段の田んぼへ山から染み出る水を貯めて、ビオトープと池を設置し、里山に水生生物が生存できる場を作った結果、次第に生物が増えてきた。

- ・5年後、ビオトープに木道を設置し、水生生物の観察をし、池ではフナやザリガニ釣りを始めた。
- ・更に翌年、生物調査を実施した

〈元気会通信、第21号〉

里山の生き物

ビオトープの生き物の種類や数がだいに増えており、京都大学の向井先生に調査をお願いしましたら、快く引き受けくださいました。9月10日晴くなるまで調査し、詳しいデーターを送ってもらいました。湿地帯とあわせて43種、368個体の中からいくつかをお見せします。



タナゴ属の仲間 25mmくらい	マルガタゲンゴロウ 15mmくらい 珍しい	トガリアメンボ 5mmくらい 外来種 関西にとんできている	コマツモムシ 10mmくらい ぼうふらを食べる
ギンヤンマ 30mmくらい	モノサシトンボ 10mmくらい	アジアイトトンボ 30mmくらい	シオカラトンボ 12mmくらい

コメント

- ・水生動物相の比較的豊かな池だといつができる。
- ・特にマルガタゲンゴロウは産地が少なく、産地でも個体数が少ない珍しい品種。
- ・下部湿地帯の砂地部分にはオニヤンマが大量にみられ、産卵場となっている。

* 湿地帯の整備では、この調査の結果を踏まえ慎重に事を進めなければならない。

* 40種余りの生物を発見



木道渡りと生物観察



ザリガニ
釣り

② 木道劣化によるビオトープ観察 中断

- ・木道枕木劣化による表面の滑り

周辺の樹木の成長による日陰と雨の湿気の影響

- ・足場板を表面に張り付け補修

同じく表面劣化が進行

- ・木道での観察は安全上中断



* 木道の改修が懸案になっていた

7. こども助成の支援による活動

R4年度のこども助成の支援を受け、念願であったビオトープ木道の改修と水源周辺の整備ができた

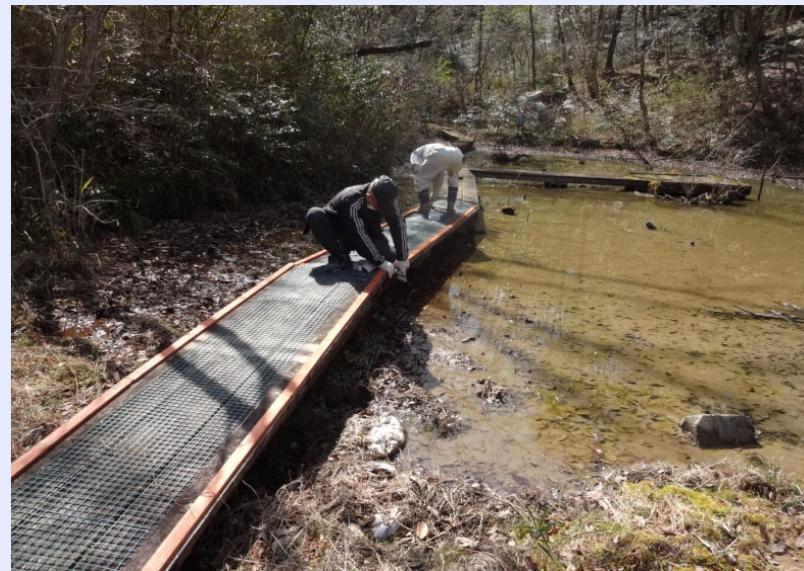
①木道の改修(R4.6～R5.3)

- ・滑り止め方法調査とテスト実施
- ・滑り止めネットの加工と木道に張り付け、及び
踏み外し防止ガイド木の取付け

②池の柵を取替え…併せて池の安全対策として実施



調査とテスト



3月ネットとガイド木取付工事



木道と池の安全対策後の状況

③ 水源周辺の整備

ビオトープの上段に位置する廃材置き場の整備として、廃材の撤去と水をろ過しやすいバラスを敷いて広場をつくった。



11月広場ができた



3月slackラインを設置

④「やまのこ」事後学習



11月「やまのこ」事後学習

* 関連活動: 栗東施設の「やまのこ」
学習にサポーターとして参加した



滋賀県が行う小学4年生の「やまのこ」学習に対応した事後(事前)学習を近隣の小学校と連携して実施した(2年目)
5年生の「うみのこ」に引き継ぐ

子ども達が得たこと	1+2組 (計53人)	
	件	%
感動、驚き (驚いた、発見した)	5	7.2
楽しい、うれしい (面白かった、楽しかった)	25	36.2
学び (知りました、わかりました)	22	31.9
達成感 (しんどかったけどできた)	3	4.4
協力 (みんなで、協力して)	0	0
経験 (…した、見た)	5	7.2
意欲 (また来たい、～に教えたい)	9	13.1
計	69	100

ふりかえり・感想文のまとめ
→ 楽しく学んだ様子が伺える

← 「緑のダム」の実験
森林の探索では、水源を観察

⑤クラフト・小物づくり教室用工具類の整備

使いやすく、安全に木の加工ができる工具を補充した。

- ・低速工具や加工用具の補充
- ・接着用グルーガンを購入



6月夢の学習クラ
フト教室
必要な工具や用
具の確認
→必要な工具等
が購入できた



* R4年度はこども助成の支援により、ビオトープ木道の安全対策及び水源周辺の整備などハード面の改善が重点的に実施できた

8. R5年度及び以降の活動

R5年度以降は、R4年度こども助成の活動成果を有効に生かし、本来の目的である水質保全の担い手となる子ども達の育成を念頭に置き、里山と水源に親しむ里山体験や学習を継続して実施します。

① R5年度初めの活動状況



4月 北保育園のビオトープ観察とザリガニ釣り



4月 里山の新しい水源を発見(池の山側) → ビオトープ
観察のルートに加える

② R5年度以降の主な活動計画

1. 「やまのこ」学習の事後学習を継続・拡大推進

里山(森林)の「緑のダム」からびわ湖・淀川へ清流をつなぐ自然の役割を理解し、いつまでも興味と関心を持ってくれる子ども達を育成する

2. 里山体験・遊びにビオトープの生物観察や水源観察のプログラムを増やしていく

3. 親子の里山体験のプログラムに環境学習の要素を加味

里山の木や枝、木の実・つるなどを活用したクラフトづくり、植樹と若木の手入れ、落葉搔きなど、自然を愛し大事にする気持ちを育成する

4. 近隣の住人とのつながり

近隣の子どもたちが気楽に里山に遊びや里山体験に来てくれるよう、アクセスなどの環境を整えていく

* 他のグループへ展開 (関連活動)

今回のことども助成の活動で学んだ森林とびわ湖・淀川の密接な関係を多くの子ども達に伝えるため、「栗東ふあざーずクラブ」の6名のメンバーが、R5年度から栗東施設・森の未来館の「やまのこ」学習に参加しています。

以上

“ お~い 里山 今日もありがとう ”

子ども達はスタッフにハイタッチして
帰ります

ご清聴ありがとうございました

◆ 井上 博之